

第7回大分市奨学資金制度検討委員会 議事要約

日 時：令和6年2月1日（木）
13時00分～13時35分
場 所：第2庁舎6階 教育委員室
出席者：検討委員会委員10名
学校教育課職員 4名

1. 日 時 令和6年2月1日（木）13：00～13：35
2. 場 所 第2庁舎6階 教育委員室
3. 出席者

○検討委員会委員

| | |
|------|--------|
| 委員長 | 長谷川 祐介 |
| 副委員長 | 能美 知子 |
| 委 員 | 杉本 緑 |
| 委 員 | 得丸 直子 |
| 委 員 | 穴井 壯志 |
| 委 員 | 江藤 陽二 |
| 委 員 | 植木 龍典 |
| 委 員 | 斉藤 修造 |
| 委 員 | 三好 正昭 |
| 委 員 | 高田 隆秀 |

○事務局

| | |
|----------|-------|
| 学校教育課参事 | 平田 敬二 |
| 学校教育課参事補 | 高橋 知美 |
| 学校教育課主査 | 高治 祥子 |
| 学校教育課主事 | 若林 遼 |

4. 欠席者

○検討委員会委員

| | |
|-----|-------|
| 委 員 | 和田 純一 |
| 委 員 | 児玉 洋司 |

5. 次 第

- 1 開会
- 2 協議
最終報告書（案）について
- 3 閉会

議事要約

1. 最終報告書（案）について

事務局より中間報告書から変わったところについて説明。

選考方法 … よりわかりやすく具体的な表現にするため、「原則1名を大分市に推薦した後」の文言等を追加

おわりに … 報告書全体のまとめとして記載。この中で既存事業の廃止についてもふれている。

委員からのご意見

- ・選考方法のところで若干の文言修正はあるが、きちんと詳しく書かれているというところと、市の方で責任持って決定するところが明記されたという意味では、学校の負担にも少し配慮した文言に変えられたという気がしている。
- ・既存の事業廃止に向けてのところは、議論したところであるが、結論としては廃止もやむなしという方向性であったかと思う。こちらもこの程度の文言記載でよいのではと思う。

2. 全体を通してのご意見等

- ・どの子にも希望する学びの場を保障して欲しいという希望があっても、様々な事情や環境があり、なかなかできないことではあるが、大分市の今後のあり方も踏まえながら「奨学金」という制度をこの会を通じて考えてきた。
- ・新しくできるこの返還免除型奨学資金制度の周知をしっかりと、良い方向で一回目の子どもたちが決まるといいと願っている。
- ・こういう奨学金を使って、少しでも自分の可能性が広がるような進路選択ができる生徒が1人でも2人でも出てくればいいと思っている。また、これが実際に運用されだしたら、いろいろな課題が出てきて大変だと思うが、それを随時、継承と発展をさせながら、制度をより良いものにしていってもらえればいい。
- ・一番心配なのは、この奨学金を担当する人が、教育委員会のなかで大変な思いをするのではということ。あわせてそういうところの配慮をした方がいい。その辺が少しでも軽減されるような形でいくと制度がより良くなると思う。
- ・中学校の立場として、まずは子ども達の間にも広めていこうと思っている。ぜひ、こういった奨学金を活用した方々が大分で頑張っているというような話を、直接、中学校で生徒に話せるのがベストだと思っている。そうした形になるよう、中学校現場も頑張っていきたい。
- ・市内の企業では人手不足が叫ばれており、解消の一助となる奨学金制度ができることは本当にありがたく思う。市内経済界の皆にも、大分に帰ってくる優秀な人をしっかり迎えるような準備として、こういう制度ができることをPRしていきたい。
- ・全国的にもあまり例の無いかたちの中で、こういう制度を始めると学校の先生方に

も苦勞をかけるのではないかと思う。採択された人はいいが、希望したけど採択されなかった人たちにも、色々な思いが生じてくるのが今後十分に考えられる。

- ・学校の先生方、利用した人、利用できなかった人など、多くの方の意見を聞いて、今後、改善できる点があれば改善していくとか、そうしたことも継続して取り組んでいていただきたい。
- ・制度の成果というのは、10年後、20年後、30年後、どこで見えるのか、まだすぐには分からないかもしれないが、きっとその時は、このタイミングでこういう議論をしてきたから良いスタートが切れたのではないかと、振り返ることができると思う。
- ・3年ほど経過する中で、見直しというのも当然、必要かもしれないので、そこは真摯に受けとめながらやっていきたい。奨学金制度の運用については人の配置もしていきたい。
- ・一番懸念されるのは、選考の際の透明性や継続性だと思う。原則1名ということなので、その辺りは透明性をもって、疑念を持たれないような形で選考するということが、行政がする仕事だと思うので十分気をつけてほしい。
- ・経営者、商業者のサイドから今回参加させていただいたが、今はどこの企業も一番の経営課題は人手不足。生産性向上のため、例えばDXだとかロボット等、デジタル化を進めながら可能な限り、人手不足を解消するような形を一生懸命やっているが、そうは言っても経営の3つの大切なのは、ヒト、モノ、カネと言われており、特に一番先に来るヒトは本当に重要なもの。特に県下では99.9%が中小企業であるので、良い人材が外に流れてしまうのは経済界も非常に悔しい思いを持つところである。今回こうした形で良い奨学金制度ができたので、我々も企業等に周知をするとともに、この制度がどんどん発展して、募集人数がもう少し増えるとか、そういった形に発展していけばいいと思う。
- ・色々な家庭をまわっていると色々な子がいる。そういう子達が、この返還免除型の奨学金制度を目指し、利用するようになって、何年何十年と続いていった後に、あの方達が大学等に進学して勉強を進められたのは、こういう制度があったからだとか、何年か後に、大分市の人材育成にこの制度が役立ったと思われるような、制度の発展を願っている。
- ・実際に運用していくとなったときに、パブリックコメントの中でも現実の運用についての意見というのが見られ、その辺は透明性だったり公平性だったり、税金を使うところからして、活用する側にも倫理観をもって活用していただく必要がある制度だと思う。そのあたりをどのように定め、周知して、浸透させていくのかというところは大変だと思うが、現場の学校の先生方と連携しながら進めていけば、より良いものになるのではないかと思う。
- ・この制度は、今の日本の奨学金制度においてもかなり良い意味で特徴的で、かつ地方自治体がしている奨学金として、かなり先進的な取り組みだと考えている。
- ・国の奨学金制度に対しても、何か良い影響を与えるようなものになったのではと思

っている。今後、運用面に関してはいろんな課題が出てくるかと思うが、まずは、実際こういう形で踏み出すことができたということが非常に価値のあることだと思う。

- ・教育とは、どういった取り組みも全てそうだが、なかなか成果が見えないからといってその歩みを止めるわけにはいかず、現時点の課題を踏まえながら、ある程度見通しを持って、前に進めていくことが大切だと考えている。
- ・この奨学金制度があることによって、大学へ進学することや、そこでしっかり学ぶことが叶い、そして何よりこの制度は、そのしっかり学んできたことを、大分市に還元しやすい制度になったのではないかと考えている。
- ・個人的には、今後、この制度を利用した方々の声とか、そういったものを聞いてみたいという思いもあるし、そういった方々からの意見を踏まえながら、また改善をしていっていただけると嬉しい。
- ・早速いろいろ課題が出てくるのが、選考の部分でということだと思うが、特に高校の先生方には、仕事が事実上増えてしまうというところはあるけれど、こういった制度があることによって、夢が叶えられる生徒が確実に出てくると思うので、大変な中ではあるが、是非ともこの制度を支えていただけると嬉しいと思っている。
- ・大学側としても、きっとこの制度を活用して入学する学生とどこかで会うことが出てくると思うので、そうした場で会えることを楽しみにしていきたい。何より大分市のために、そういった奨学金を利用された方が活躍していくことを祈っている。

【まとめ】

最終報告書（案）については修正等特に無く承認を得た為、第7回大分市奨学資金制度検討委員会終了後の翌日、長谷川委員長より教育長への提出が行われた。